

全国知事会 第41回 新型コロナウイルス緊急対策本部会議
蒲島熊本県知事コメント

まず本県の感染状況についてです。

新規感染者数は、1日に5千人近くが確認される日もあるなど、急速に増加しています。病床使用率も、昨日時点で79.1%と非常に高い状況です。これは、医療機関でのクラスター等が影響しているためですが、その影響を除いたとしても、56.1%と高い水準にあります。

そのため、本日午前中の記者会見において、県民の皆様へ、年末年始における感染防止対策の徹底等について呼びかけました。

また、明後日には、感染拡大に対応するための保健・医療提供体制について、専門家と協議することとしています。

本日は、2点申し上げます。

1点目は「レベル分類の運用」についてです。

国は「重症化率の低いオミクロン株が流行している状況においては、強い行動制限は行わない」という方針を示しており、これについては異論ありません。

一方で、強い行動制限を行わないということは、その分、国民一人ひとりに「感染しない、感染させない」という意識を、これまで以上に強く持っていただく必要があります。

そのためには、国や都道府県、医療関係者、そして国民が、現在の感染状況や医療提供体制の状況等について、共通の認識を持つことが重要です。

その手法の一つとして、国が示す「レベル分類」があります。しかし、現在のレベル分類は、病床使用率だけではなく、発熱外来患者数や職場の欠勤者の状況など、様々な「事象」も含めて判断するとされています。

総合的に判断するという考え方は理解できますが、考慮すべき事象が多ければ、その分、国民にとっては分かりにくい基準となってしまいます。

国民と感染状況の認識や危機感を共有するためにも、国においてレベル分類の分かりやすい運用方法等を検討し、丁寧に説明していただきたいと思えます。

2点目は「ワクチン接種」についてです。

現在、国民のワクチン接種を促進するという方針が示される一方で、公費負担の見直しの議論についても報道されています。

少なくとも、インフルエンザのように治療薬が十分に普及するまでの間は、接種を促進する必要があります。そしてそのためには、現段階では、公費負担は継続すべきだと考えます。

そのうえで、副反応による接種控えが起きている状況を踏まえると、オミクロン株対応ワクチンの接種にインセンティブを持たせるなど、新たな対策も検討していただきたいと思えます。

以上